

## 夢を追うもの

奨励	高杉 久美子〔たかすぎ・くみこ〕
奨励者紹介	社会福祉法人京都地の塩会光の子保育園園長 日本キリスト教団小栗栖伝道所教会員

いちじくの木に花は咲かず  
ぶどうの枝は実をつけず  
オリーブは収穫の期待を裏切り  
田畑は食物を生ぜず  
羊はおりから断たれ  
牛舎には牛がいなくなる。  
しかし、わたしは主によって喜び  
わが救いの神のゆえに踊る。  
わたしの主なる神は、わが力。  
わたしの足を雌鹿のようにし  
聖なる高台を歩ませられる。

(ハバクク書 3章17-19節)

### わたしは主によって喜び

保育士と聞くと、体力勝負で大変な仕事だと思われる方も多いかもかもしれません。でも、保育園にいて、いろいろな所へ連れていってもらえます。コンサート・ミュージカル・水族館にキャンプ、イチゴ狩りや秋のお芋ほり。10月になると、週2回は動物園に連れていってもらえます。今週の金曜日は、奈良の大仏見物らしく、お昼はファミリー・レストランでご馳走してくれるそうです。一緒に出掛ける体験を共有することが、保育園は多いかもしれません。

ずっといつも保育園にいて、子どもと一緒にいるので気づかないのですが、一番幸せなことは、いつも夢と一緒に生きてこられたことです。

ここにいらっしゃる皆様、お一人お一人もいろいろな夢をもっておられると思いますが、保育する者の夢というのは、一人のものではなくて、仲間と同じ夢をみることです。保育士は、仲間と一緒に夢を追う仕事であると思います。子どもは未来。未来は夢です。夢というのは、できるかもしれない、なれるかもしれない、漠然としているけれども生きていることを幸せにしてくれる心。仲間と同じ夢を見て、頑張れることはとても幸せなことです。

### 子どもの貧困化について

しかし、私たちの夢はさまざまな問題に直面しています。「子どもの貧困」をご存じでしょうか。親の経済力が、子どもたちの人生を最初から決めてしまうことです。「〇〇になりたい。」「こうありたい。」と思うことすら許されない子どもたちが増えつつあります。学力が経済力と比例すると聞くこともあります。

子どもは、私たちの大切な未来です。未来に夢を抱けないことがあるとするならば、それは大変悲しいことです。

保育園は子どもたちと親御さんや先生たちが夢を育む所です。ここ数年、多くの保育園の現場のテーマとして取り上げられるのは、「生きる力」「食育」「自己肯定感」です。光の子保育園では「笑顔」「お返事」「ごあいさつ」をテーマにしています。生きる力が乏しく、食生活に問題があり、自分を好きになれない、生まれてきて良かったと思えない、人とのかわりが上手くできない子どもが増えつつあります。

### 子どもを守ること

今、光の子では122人の子どもたち、122人分の未来が賑やかに毎日を過ごしています。反面、保育園にも、社会そのものという防ぐことができない現実が、子どもたちに向かってきています。

今の子育ての理想や現実、まるでもつれ違った糸のようです。簡単には解決できないようです。もつれ違った糸を根気よくときほぐし、まっすぐな糸に戻すのは大変な作業です。でも、私たちはあきらめたくありません。

この学校から見える大文字山に、この前の土曜日に登りました。遠足の下見だったのですが、本当に良い眺めで、ぜひ子どもたちを連れてこなければと思いました。この大学も見えました。振り返れば弘法大師の石碑があり、そういえば途中、お地藏さんにも出会いました。

京都は、信仰の街です。弘法さんが見守り、お寺が見守り、神社が見守る。そして私たち教会が見守っています。

「しかし、わたしは主によって喜び わが救いの神のゆえに踊る」(ハバクク書3章18節) 神様は、小さいもののところにてくださいます。信じて、子どもたちの未来を一緒に守りたい、夢見たい、と願います。

2012年10月23日 今出川火曜チャペル・アワー「奨励」記録